

①学校名:	熊本 大学(国立)	②所在地:	熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39-1		
③課程名:	産学連携教育イノベーター育成プログラム	④正規課程/履修証明プログラム:	履修証明プログラム	⑤開設年月日:	2021/7/18
⑥責任者:	教授システム学研究センター長 教授 喜多 敏博	⑦定員:	25名	⑧期間:	1年
⑨申請する課程の目的・概要:	<p>本課程の目的は、産学連携による人材と知の循環を促進し、実践的かつ広く深い学びを追求することによって、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会を実現すること、そのために、未来を拓く人材の各界への輩出において中心的役割を担う実務家教員を育成することにある。</p> <p>近年、社会・経済の高度化やグローバル化、さらには人口減少社会の進展を背景に、高等教育と産業界の関係性が深化し、産学連携による人材育成(産学連携教育)が本格化し始めている。つまり、産学が連携することによって、学生がインターンシップやPBLを通して実社会を経験しながら学ぶ一方、社会人も大学等が提供するリカレント教育を通して学び直し、新たにチャレンジし続ける社会への移行が始まっているといえる。こうした時代的变化を踏まえ、本課程では、実務家教員(=教育イノベーター)を育成し、高等教育機関に送り出すことによって、学びと社会をつなぎ、学生の大学教育等への動機付けを高めるとともに、社会人をリカレント教育へ惹き付けることを目指す。</p>				
⑩4テーマへの該当の有無	無	⑪履修資格:	<p>次の①②の両方を充たす者。</p> <p>① 大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者。</p> <p>② 原則として専門的技術的又は管理的な職務において5年以上の実務経験を有する者。</p>		
⑫対象とする職業の種類:	企業や地方公共団体及びその他の団体等での実務経験を有し、今後、大学など高等教育関連機関での職を目指す者、高等教育の教育研究に関心のある者などを広く対象とする。				
⑬身に付けることのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能)		(得られる能力)		
	<p>① 大学教員として教育を担うための基礎的知識・技能・態度を身につける。</p> <p>② 各コースに設定する専門領域(汎用的な専門性)における教育実践力を身につける</p>		<p>③ 学びと社会を繋ぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する「教育イノベーター」としての変革力を身につける</p>		
⑭教育課程:	<p>本教育課程は、以下の4つの科目で構成する。</p> <p>① <u>大学教育基礎力育成科目(必修15時間)</u> オンライン研修により、大学教員としての教育基礎力(基礎的知識・技能・態度)を修得することを目的とする。</p> <p>② <u>汎用的教育実践力科目(必修9時間)</u> 大学で授業を担当し、指導を行うために必要な実践的知識・スキルを修得することを目的とする。</p> <p>③ <u>専門領域別科目(選択コース:必修24時間)</u> 各コースの専門領域における知識・スキル・資質を獲得することを目的とする。</p> <p>④ <u>教育イノベーター実践演習科目(必修12時間)</u> これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営できるようになることを目的とする。</p>				
⑮修了要件(修了授業時数等):	<p>① 2か年以内に本研修プログラムの60時間の課程を履修し、全科目に合格すること。</p> <p>② 熊本大学教授システム学研究センター運営委員会による認定を受けること。</p>				

⑩修了時に付与される学位・資格等:	履修証明書							
⑪総授業時数:	104	時間	⑫要件該当授業時数:	56.7	該当要件	企業、双方向、実務家	⑬要件該当授業時数 / 総授業時数:	55%
⑭成績評価の方法:	<p>プログラム実施組織(代表校:東北大学、連携校:熊本大学・大阪公立大学・立教大学)で構成する「産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム事業実施会議」が、以下の方法で成績評価を行う。</p> <p>(1)大学教育基礎力科目 12の各学習項目において設定される「科目の最終課題提出のための条件(小テストでの合格、掲示板への投稿と相互コメント。いずれもLMS(moodle)上で実施)」をすべて満たした後に、科目の最終課題である大学教育基礎力レポートを提出させ、同レポートを採点担当者がチェックリストを用いて評価を行い、100点満点中60点以上で合格とする。</p> <p>(2)汎用的教育実践科目 3つの学習項目で行う演習の成果物をLMS(moodle)上で提出させ、同成果物を採点担当者がルーブリックによって評価し、100点満点中60点以上で合格とする。3つの学習項目の全てに合格することで、汎用的教育実践科目としての合格とする。</p> <p>(3)専門領域別科目 各学習項目で設定された全ての課題をLMS(moodle)上で提出し、それら全てが採点担当者による評価で合格基準を満たすことで合格となる。</p> <p>(4)教育イノベーター実践演習科目 成果発表会における発表内容、質疑応答内容、省察を含むリフレクションレポートを提出させ、同レポートをルーブリックで評価し、100点満点中60点以上で合格とする。</p>							
⑮自己点検・評価の方法:	<p>学校教育法第109条第1項に定める評価を実施する。具体的には次の3つのプロセスによって行う。</p> <p>(1)プログラム実施組織である「熊本大学教授システム学研究センター運営委員会」及び「産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム事業実施会議」において、受講者の科目履修状況、課題レポート等の成績評価結果、受講者満足度等に関して定期的に定量的評価(モニタリング)を行う。</p> <p>(2)「産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム運営委員会」を毎年開催し、①教育課程編成、②学修成果(受講者満足度、学習到達度)、③プログラム運営体制について実施・評価報告と意見聴取を実施し、本プログラムの成果等に関する定性的評価を行う。</p> <p>(3)数年に一度、プログラム修了者の参加を得て「プログラム修了者会議」を開催し、本プログラム修了後の就職状況や修得した能力、本プログラム修了による意識・行動変容についてフォーカスグループインタビュー(FGI)を用いた定性的評価を行う。</p> <p>なお、当該評価結果については適宜ホームページにおいて公表する。</p>							
⑯修了者の状況に係る効果検証の方法:	<p>修了者の状況に係る効果検証として、以下の3つを行う。</p> <p>(1)修了時における学習到達度(知識・能力等の修得レベル)及び満足度に関するアンケート調査</p> <p>(2)修了後一定期間を経た修了者に対して、修得した知識・能力の活用度等に関するフォローアップ調査(アンケート調査、インタビュー調査)</p> <p>(3)「プログラム修了者会議」におけるフォーカスグループインタビュー(FGI)による修了生の意識・行動変容に関する定性的評価</p>							
⑰企業等の意見を取り入れる仕組み:	<p>(教育課程の編成) 「産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム運営委員会」を毎年開催し、本プログラムの実施・評価報告に基づいて、各委員から意見聴取を行った上で、「同コンソーシアム事業実施会議」及び「熊本大学教授システム学研究センター運営委員会」においてその内容を検討し、課程編成に反映させる。</p> <p>(自己点検・評価) 「産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム運営委員会」を毎年開催し、本プログラムの実施・評価報告に基づいて各委員から意見聴取を行う。</p>							
⑱社会人が受講しやすい工夫:	休日・週末の開講及びIT活用							
⑲ホームページ:	(URL) https://jitsumuka.jp/innovator/							

事務担当者名:	猿山 博英	所属部署:	熊本大学教育研究支援部 人社・教育系事務課
連絡先:	(電話番号) 096-342-2309 (E-mail) jsi-somu@iimu.kumamoto-u.ac.jp		

*パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。

* 様式に記載いただいた内容と欄外の「※集計用データ(文部科学省使用)」に記載の内容が、一致しているかを必ずご確認ください。